



保健看護学の未来を担う、高度臨床実践者・教育者・研究者を育成します。

学部での学びをさらに発展させます

教育課程	博士前期課程保健看護学専攻		博士後期課程 保健看護学専攻
	論文コース	がん看護専門看護師 コース	
教育理念	広い視野と高邁な倫理観に立ち、人間の尊厳を重視する保健看護学の教育・研究を進め、保健・介護・福祉に対するニーズに先駆的に対応し、健康に関係する様々な分野相互の連携の重要性が理解できる資質の高い保健看護職者と健康関連専門職者を育成する。 また、本学保健看護学部の使命である「地域に根ざした保健看護学の考究」の推進者として、地域の人々の健康の保持増進、疾病・障害に伴う諸問題を含め、倫理的・科学的な研究に対する意欲をもち、自律して質の高い計画を立案・実行し、社会のニーズに柔軟かつ豊かに対処することができる健康づくりに関わる専門職業人として能力の向上をめざす。		広い視野と高邁な倫理観に立って、人間の尊厳を重視する保健看護学の教育・研究を進め、保健・医療に対するニーズに先駆的に対応し、健康に関係する様々な分野における健康づくりに寄与できる教育・研究者を育成し、地域における人々の健康に貢献する。
アドミッションポリシー	1. 保健看護学分野における専門性を高めるための研究に意欲をもつ人 2. 保健看護学以外の領域で学んだ知識と技能を保健看護学の研究へ応用、発展しようとする人 3. 本課程で学ぶ知識と技能を医療や医療以外の領域へ応用、発展しようとする人 4. 地域医療への貢献を研究的視点にもつ人		1. 保健看護学に関する高い関心と研究への強い意欲をもつ人 2. 保健看護学の発展と社会福祉の向上に熱意をもつ人 3. 保健看護学への貢献を研究的視点にもつ人 4. 保健看護学の専門職業人として、高度な専門知識の更新、リカレント教育に取り組もうとしている人
専攻領域	☐ 健康科学領域 ☐ 基盤看護学領域 ☐ 生活・地域保健学領域	☐ 基盤看護学領域がん看護学	☐ 生涯保健看護学領域 ☐ 地域保健看護学領域
選抜方法	☐ 一般選抜 ☐ 社会人選抜	☐ 一般選抜 ☐ 社会人選抜	☐ 一般選抜 ☐ 社会人選抜
入学試験	一般選抜、社会人選抜ともに英語、専門科目、面接を行う		
入学定員	12 名		3 名
修業年限 ^(*)	2 年	3 年 (長期履修制度利用)	3 年
取得できる学位・資格	修士（保健看護学）	修士（保健看護学） がん看護専門看護師 認定審査受験資格	博士（保健看護学）
学生支援	日本学生支援機構による奨学金制度（社会人は申請することができません。）		

^(*) 長期履修制度あり



博士前期課程（修士課程）

健康科学領域

身体的、精神的、社会的側面から「健康」をとらえ、関連する諸科学において学際的に探求する領域

専攻分野

- 健康増進学
- 運動器疼痛リサーチ & マネジメント学
- 発育・育成学
- メンタルヘルス学
- 社会予防疫学
- 対人援助コミュニケーション学

基盤看護学領域

看護学の専門性に対応した看護学各分野における実践者、研究者、教育者の育成を目指す領域

専攻分野

- 基礎看護学
- 高齢者看護学
- 慢性看護学
- 急性看護学
- がん看護学

生活・地域保健学領域

家庭、地域、職域等、人々の生活の場における健康づくりのプロフェッショナルを育成する領域

専攻分野

- 母性保健学
- 小児保健学
- 地域看護学
- 在宅ケア看護学
- 環境保健学

授業科目

■共通科目（必修）

論文コース、がん看護専門看護師コース共通

- ・保健看護学研究法
- ・英語文献講読
- ・保健看護情報統計学

論文コース

- ・特別研究

がん看護専門看護師コース（必修）

- ・臨床薬理学・フィジカルアセスメント
- ・病態生理学・課題研究

■共通科目（選択）

論文コース、がん看護専門看護師コース共通

- ・ヘルスケアエシックス・保健看護学概論
- ・健康マネジメント政策論・看護教育論・看護管理論
- ・看護理論・コンサルテーション論・健康測定評価論
- ・健康栄養学・家族看護学・医療と法

論文コース

- ・臨床薬理学・フィジカルアセスメント・病態生理学

■健康科学領域

- ・健康増進学特論
- ・健康増進学演習
- ・運動器疼痛リサーチ & マネジメント学特論
- ・運動器疼痛リサーチ & マネジメント学演習
- ・発育・育成学特論
- ・発育・育成学演習
- ・メンタルヘルス学特論
- ・メンタルヘルス学演習
- ・社会予防疫学特論
- ・社会予防疫学演習
- ・対人援助コミュニケーション学特論
- ・対人援助コミュニケーション学演習

■基盤看護学領域

- ・基礎看護学特論
- ・基礎看護学演習
- ・高齢者看護学特論
- ・高齢者看護学演習
- ・慢性看護学特論
- ・慢性看護学演習
- ・急性看護学特論
- ・急性看護学演習
- ・がん看護学特論
- ・がん看護学演習
- ・がん看護学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ*
- ・がん看護学実習*
- ・がんリハビリテーション看護A・B*
- ・緩和ケアA・B*

*がん看護専門看護師コース必修

■生活・地域保健学領域

- ・母性保健学特論
- ・母性保健学演習
- ・小児保健学特論
- ・小児保健学演習
- ・地域看護学特論
- ・地域看護学演習
- ・在宅ケア看護学特論
- ・在宅ケア看護学演習
- ・環境保健学特論
- ・環境保健学演習

博士後期課程（博士課程）

生涯保健看護学領域

- 母子保健看護学
- 成人期保健看護学
- 高齢期保健看護学

地域保健看護学領域

- 地域保健看護学

授業科目

■共通科目（必修）

- ・保健看護学研究法
- ・後期特別研究

■共通科目（選択）

- ・健康管理論
- ・生活支援看護学

■生涯保健看護学領域

- ・母子保健看護学特論
- ・成人期保健看護学特論
- ・高齢期保健看護学特論

■地域保健看護学領域

- ・地域保健看護学特論

大学院生メッセージ



張 春浩さん（博士前期課程2年生）

「国境を越えて、深く楽しく学びましょう！」

私は中国の山東省から留学生として来日しました。来日後、日本の看護師免許を取得し、看護師として働いています。働く中で、患者さんのニーズに対応できない現状や自身の知識やスキルの未熟さを感じる事が多く、より質の高い看護サービスが提供できるようになるために成長したいと考えて、大学院に進学しました。日本の文化や医療制度などについて学び、中国ではできないような経験をたくさんさせていただきました。

大学院での経験を通じてより大きい視野から物事を考えられるような人間的な面での成長を実感しています。また、他分野の看護の専門職の方々とともに学ぶことはとても楽しく、私の大きな財産となっています。この大学院への進学を決めて本当に良かったと思っています。

向藪 花鈴さん（博士前期課程2年生）

私は入職時より救急科に配属となり、看護師臨床経験6年目で大学院に進学しました。救急科は急な病気や事故などで救急搬送される患者が多く、患者本人に意思決定能力がない場合は家族が代理意思決定を担う必要があるため、その支援の難しさを感じていました。そこで、急性期における意思決定支援、代理意思決定支援について学びを深めたいと考えたので、大学院に進学しました。

大学院では、先生方のご指導のもとで、年代や活躍の場が異なる仲間とともに、看護や研究について学びを深めることができます。臨床の経験だけでは得られない学びが多くあるのでとてもいい刺激を受けています。

仕事と学業の両立は大変なこともあります。先生方や仲間と過ごす時間はとても楽しく充実しています。大学院で学んだことを臨床の実践につなげることができるのでやりがいを感じています。



原 裕子さん（博士後期課程2年生）

博士後期課程は、自立して研究を展開することが求められます。そうしなければ何も成果が生まれません。しかし生涯、研究者として追求したい研究課題とじっくり向き合え、研究遂行に必要な力を身につけることもできる贅沢な時間であると思います。

私は博士前期課程のときから、急性期病院の看護師の患者の退院後を見据えた看護実践力向上に関する研究課題に取り組んでいます。現在は、急性期病院の看護師さんの勤務にご同行させていただき、臨床での実践の様子を調査させていただいています。研究者としてみる臨床には、看護師としてみていた時とは異なる素晴らしさ、魅力があり、調査に何わせていただくたびに新鮮な気持ちになると同時に、協力者の皆様へきちんと研究成果を還元しなければという思いが強くなります。

大変ではないと言うと正直嘘になりますが、先生方のご指導や入学年度を問わない博士後期課程の方々の支えもあり、研究遂行のために必要な力が少しずつですが、身に付いてきているように感じています。本学の受験をもう決められている方も、まだ悩んでおられる方もぜひ私達とともに学び、成長していきましょう。